

請 願 文 書 表

(教育委員会)

受 理 番 号	3 9 6	受 理 年 月 日	令 和 8 年 2 月 17 日
件 名	全ての子どもたちに行き届いた教育の実現		
要 旨	<p>この間、不登校児童生徒数は京都市において高止まりしており、子どもたちにとって、また保護者にとっても不安な状況が続いている。今正に一人一人の子どもに丁寧に寄り添うことができる学校づくりが、京都市でも求められている。子どもたちの心身の状況に寄り添って、丁寧にケアするためにも教職員を増員し、少人数学級にすることが必要不可欠である。</p> <p>ここ数年続く物価高騰に加え、米不足により多くの子育て世帯が苦しむ中で、教育費の無償化は急務である。全国では給食の無償化が進み、来年度より小学校給食が無償になるとの報道に大きな期待が寄せられている。しかし、高校で使用するタブレット端末の保護者負担なども家計を苦しめている。学習に必要なものは保護者負担によらず、行政が責任を持って準備することを求める。</p> <p>こども基本法が施行された。法の精神にのっとり、子どもの権利条約に根差し、子どもの声が反映した学校づくりを進めていくことが行政の大切な役割となっている。</p> <p>については、教育予算を拡充し、全ての子どもが安心して学べ、行き届いた教育を受けることができ、教育条件整備が実施されるよう、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 京都市独自予算で各校に教員を配置すること。小・中・高全ての学年を早期に30人以下学級にすること。 2 安心・安全な中学校給食を京都市の責任で実現するため、大型の給食センターにこだわることなく、自校調理・親子方式の給食を可能な所から始めること。 3 学校の特別教室や体育館へのエアコン設置及び普通教室のエアコン改修、トイレの洋式化を早急に進めること。 4 保護者の経済的負担を軽減し、教育の無償化を進めること。 <p>なお、本請願に署名3,094筆を添える。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	玉本なるみ、とがし 豊、赤阪 仁		
付 託 委 員 会	文教はぐくみ委員会		